



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペり日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/9 (月)	+ 400	▲ 9,700	▲ 9,300	国庫短期証券発行証券 (3M)	国債補完供給 社債等買入 +3,600 ▲100		日: 国際収支 (1月) 貿易収支 (1月)
3/10 (火)	+ 1,000	▲ 2,000	▲ 1,000	国庫短期証券発行償還 (6M) 国債償還 (物連10年) 流動性供給			日: GDP (4Q)
3/11 (水)	トン	+ 8,000	+ 8,000				米: CPI (2月)
3/12 (木)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行 (5年) 源泉税揚げ			米: 貿易収支 (1月)
3/13 (金)	▲ 1,000	+ 7,700	+ 6,700				米: GDP (4Q) PCE価格指数 (1月) 欧: ユーロ圏鉱工業生産 (1月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比4兆5,800億円減少の45兆6,500億円から始まった。その後、国債発行や、税揚げ、国債買入オペ等の要因により増減し、6日は44兆9,000億円 (速報) で越えた。  
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.727%から始まった。その後も概ね横ばいで推移した。  
ターム物は1W~3W物0.710%~0.860%のレンジ、1M~3M物0.920%~1.170%のレンジで出が見られた。  
来週の予定は、国内では10日にGDP (4Q改定値) の公表、海外では11日に米CPI (2月) の公表、13日に米GDP (4Q) 、米PCE価格指数 (1月) 、ユーロ圏鉱工業生産 (1月) の公表などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.728
1M	0.85 ~ 1.10
2M	0.90 ~ 1.15
3M	1.00 ~ 1.20
6M	1.00 ~ 1.30

### <レポ>

足許GCは週を通して+0.75%~+0.755%の狭いレンジで取引された。買い入れオペや短国の発行等の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。SC取引は2年470~480回債、5年155~183回債、10年356~371、378~381回債、20年110~130回債、30年86~89回債などに引合いが見られた。30年89回は発行日前に、低い水準での出合も見られた。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70%台
CP 3M	0.90 ~ 1.10

### <CP>

今週の入札発行総額は約1兆3,450億円で、週間償還額の1兆5,540億円を下回った。発行残高は、先週末時点の26兆5,707億円から、3月5日時点で26兆988億円へと減少した。発行市場では、鉄鋼・石油製品・不動産業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.90%台から1.0%台、3ヶ月物で1.0%近辺から1.2%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆9,730億円となっている。発行市場は、引き続き決算期末に向けた有利子負債圧縮が進むことから、ショートターム物を中心とした落ち着いたマーケットが見込まれる。発行レートは、日本銀行が利上げを継続する姿勢を示していることに加え、中東情勢が緊迫化していることから、水準を見極める展開が続

### <TDB>

6日の3M (1366回債) の入札は、最高落札利回り0.7756% (前回債0.7836%) 、平均落札利回り0.7667% (前回債0.7715%) となった。来週の入札は9日に6M、13日に3Mが予定されている。